



河端瑞貴 教授

専門：経済地理、都市政策、
GIS の応用と教育

(インタビュー：布川、敷田)

『最先端の技術、GIS (地理情報システム)。』

Q. 河端先生の専門とされている研究内容はなんですか？

私の専門は GIS の応用と教育、経済地理、都市政策です。今現在、特に関心を持っているのは、経済・政策分析における GIS と空間データの活用法と、少子高齢化の克服や女性の就労に資する経済地理的な研究です。

『自主性の尊重、やりたいことを応援します!!!』

Q. 河端先生の教育理念を教えてください

私の教育理念は、学生の自主性を伸ばす、尊重することです。人の意見に耳を傾けるのも大事ですが、自分でやりたいことを見つけて、自分で判断して、実行する力をサポートしてあげたいと思います。グループワークのよさも教えたいです。

『GIS がキャリアを決めました。』

Q. 河端先生の学生時代のお話を聞かせてください

経済学部生の頃は、体育会ゴルフ部と吉野直行先生のゼミに参加していましたが、それぞれ貴重な経験でした。卒業後は藤沢キャンパスの政策・メディア研究科に進学しました。当初は建築や都市計画を勉強したくて行ったのですが、たまたま大規模な GIS ラボがあり、そのラボの先生や学生と一緒にプロジェクト部屋に入り、GIS を使い始めました。そこで GIS が楽しくなり、夢中になりました (笑)。GIS のエキスパートの先生や学生が身近にいる研究環境は、とても

恵まれていました。その後はMIT博士課程に進学し、都市計画専攻のGISグループに入りました。GISのスキルがあったため、初年度からRA (Research Assistant) として雇っていただけて、奨学金 (学費免除とお給料) を受けました。その後もGISに助けられ、GISが私のキャリアを決めたと言っても過言ではないです (笑)。

『GISはあくまでツール、求めるものはやる気と多様性。』

Q 河端ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

第一に、都市・地域における現実の空間的社会経済問題に興味があって、それを研究したいと思う人に来ていただきたいです。GISはひとつのツールで、絶対に使わなければならないわけではありません。ただGISを使うと、既存の手法では困難な分析を行うことができます。GISを媒介に、社会経済問題に対する新しい分析手法や知見を見出すような、そのような研究ができるといいですね。

ゼミ生には、ゼミに専念しても、ゼミ以外にも打ち込むものがあるとしても、それぞれ尊重してあげたいです。ゼミ以外の活動をしていても全く問題ありませんが、ゼミにも尽力する意欲のある学生に来てもらえると嬉しいです。多様な学生がいて、全体として1+1が3になるといいですね。

『好きで、自分に適していて、自分が貢献できる道へ』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

学生時代は、好きで、できることを目一杯やっておくといいと思います。好きでも、自分に合っていなかったり、能力がなかったりすると先々なかなか大変です。いろいろなことに挑戦しながら、自分が好きで、自分に適していて、さらに自分が貢献できる道を見つけられるといいですね。チャンスがあれば、学位を取る留学をお勧めします。留学は貴重な体験です。大いに奨励したいです。